

＊がん看護外来のご案内＊

～がん患者さんの思いに寄り添い、日常生活や治療選択のお手伝いをします～

看護師長・がん化学療法看護認定看護師 古澤 恭子

当院は、2002年よりがん診療連携拠点病院として、がんの専門的な治療を行うだけでなく、よりよい医療を提供するために地域の医療機関と協力しながら役割を担っています。

そして、患者さんやご家族の皆様を支援する体制として、「がん相談支援センター」、患者会である「向日葵会」、同じ経験を持つがん患者さんによる「ピアサポートセンター」、「就労相談」、「がん看護外来」を設けています。今回は、「がん看護外来」について紹介します。

がん看護外来では、がん領域の専門的な知識を持つ専門の看護師が、がん患者さんとご家族の支援を行っています。がん医療が進歩している中で、がん患者さんやご家族が医師からの説明に対して十分に理解し納得して治療を選択できるよう、専門の看護師が診察に同席して一緒にお話を聞きます。その後には、患者さんとご家族の思いを伺い、日常生活や治療選択のアドバイスをしています。が患者さんとご家族の思いに寄り添った医療ケアを提供できるよう努めています。



がん看護外来メンバー

＊武蔵野市と協定を交わしました＊

一新病棟建設計画に関する協定式

場所：武蔵野市役所 日時：2019年3月22日（金）
午前9時～9時30分

武蔵野赤十字病院新病棟建設に伴い「がん診療」「周産期医療」「災害時対応」学校教育への協力「土曜日の人間ドック」などの充実に向け、武蔵野市が当院に支援する協定を武蔵野市松下手子市長と当院の病院長泉井木が交わしました。



公開講座

講座名	開催日	時間	場所	受講料	申込	問合せ先
糖尿病教室	4/6, 5/11, 6/1	13:00～15:00	山崎記念講堂	無料	不要	医療社会事業課
心臓病教室	5/29, 9/11	14:00～15:00	山崎記念講堂	無料	不要	循環器科外来
がん患者・家族交流会	5/31, 6/21	14:00～16:00	山崎記念講堂	無料	事前予約20名 予定	がん相談支援センター
新病棟教室	5/28, 6/19	14:30～16:00	山崎記念講堂	無料	電話 0422-32-3135（直通） 月～金 9:30～16:00	診療相談センター
プレおばあちゃん教室	5/15, 7/17	13:00～15:00	母子健康相談室	3,000円/1人	平日15:00～16:00	産婦人科外来

＊むさしのふれあい赤十字デー＊

	内容	開催日	時間	場所	費用	申込	問合せ先
市民講座	糖尿病・乳がんの自己検診・栄養・運動、心臓のお話し等	5/21～5/24	13:00～15:30	武蔵野赤十字病院	無料	不要	医療社会事業課
イベント	バザー、コンサート、フラダンス等	5/25	10:00～15:00				

＊詳しくは当院ホームページ「病院からのお知らせ」・「公開講座・イベント」等でご紹介しています。



日本赤十字社

武蔵野赤十字病院

No.61

2019年 春

〒180-8610
東京都武蔵野市境南町1-26-1
TEL 0422-32-3111
季刊 情報誌

Eye むさしの

頼れる病院をめざします

がんゲノム医療の提供を開始しました。



がんゲノム医療の検討会

基本理念

- 病む人への愛
- 同僚と職場への愛
- 地域住民と地域への愛
- 地球、自然、命への愛

基本方針

- (1) 患者・家族から信頼される安全な医療を提供します
- (2) 地域中核病院としての機能向上を図ります
- (3) 地域の医療機関・行政と連携して市民が安心して住める地域づくりを進めます
- (4) 質の高い医療を提供するため、安定した病院経営を継続します
- (5) 働きがいがあり、成長を実感できる職場をつくります

武蔵野赤十字病院は「がんゲノム医療」の提供を開始しました!

●当院は「がんゲノム医療連携病院」に指定されています

厚生労働省は、第3期がん対策推進基本計画に基づいて、中核病院11病院と連携病院135病院を、がんゲノム医療を提供する施設に指定しました。当院は昨年10月に連携病院に指定され、岡山大学病院と国立がん研究センター中央病院と連携してがんゲノム医療の提供を開始しました。



●新しい「がん個別化医療」—がんゲノム医療

がんは、喫煙、食物、紫外線や加齢など様々な要因により、遺伝子に病的な変化(変異)が生じ、複数の変異が積み重なることで発生する「遺伝子の病気」であると言われています。ゲノムとはgenome=gene(遺伝子)+ome(全体)の組み合わせた言葉で、「遺伝情報の全体」を意味します。がんゲノム医療では、がんの発生に関係があることがわかっている数百個の遺伝子を一括して解析をする検査<がん遺伝子パネル検査>を行って、遺伝子の変異に応じた最適な治療を提供する医療です。これまでのがんの治療方法は、がんが発生した場所(臓器)ごとに決められていましたが、がんゲノム医療では、がんの遺伝子変異をもとに治療を選択する新しい「がんの個別化医療」です。



●がん遺伝子パネル検査は

現在がんの治療を受けていて、標準的な治療薬に効果が乏しい方が対象になります。採取したがんの組織を、次世代シーケンサーという最新の遺伝子解析装置を用いて、がん関連遺伝子について一括して解析し、変異を検出します。遺伝子変異が治療に影響を与えるものかどうかを、データベースやガイドライン、臨床試験の結果などと照らし合わせて判断し、最終的に遺伝薬や薬物療法、がん治療の専門家が集まるエキスパートパネルとよぶ会議で治療の選択肢を検討します。この検査は、多くのステップを踏むために検査をオーダーしてから結果が得られるまでに2ヶ月程度を要します。



病理標本を作成

●検査を受けて治療はどう変わりますか

ゲノム医療は始まったばかりの医療ですので、検査を受けたすべての患者さんに最適な治療が提供できるわけではありません。選択された薬剤が現在かかっているがん種で保険適用になっている場合には、通常どおりに治療をうけられます。しかし、保険適用外の薬剤の場合には保険診療内での治療は行えません。薬剤の使用を試みる方法としては、先進医療や治験に参加する、自費診療で受けるなどがあります。また検査で遺伝子変異の状況がわかっても対応した薬剤がないなど、治療につながらない場合もあります。このような場合には従来の治療を行っていただくことになります。



患者さんに丁寧に説明



●日々進化していくがんゲノム医療

将来がんゲノム医療が進んでゆくと、ゲノム医療のデータが集積して治療薬・診断法の開発が進み、新たに治療薬が承認され治療に結びつく可能性があります。多くの患者さんに良いがん治療が届けられるように、私たちはがんゲノム医療を推進して行きたいと考えています。

●がんゲノム医療をご希望される方は

現在治療を行っている病院の担当医師にご相談ください。当院の受診方法は当院ホームページ、「がんゲノム医療センター」の「がんゲノム医療外来」をご覧ください。

